

Website

## 持続可能な資源循環とは？ を探究する環境学習ウェブサイト

資源循環の世界は、例えばプラスチック1つをとっても、その製造から廃棄に至るまでの道のりは長く複雑だ。

このサイトでは、そんな専門的で複雑な資源循環に関するデータ（資源の採取→生産→使用→リサイクル→廃棄）をまとめ、全体をパッと俯瞰するフロー図や、関連性を深く調べるデータを掲載している。

これからの社会は、「資源を廃棄物にしない。もし廃棄物になったら、それを使って新しい価値を生み出す」ことがキーワードになるだろう。そんな未来を発明していくために、まずは知ることから始めてみたい。



中学生・高校生・市民のための環境リサイクル学習ホームページ  
<https://www.cjc.or.jp/school/>  
 一般社団法人産業管理協会 資源・リサイクル促進センター

Tool

## 「ごみ」への考え方を変えるゲーム

「ゼロ・ウェイスト」の取組で世界から注目を集める徳島県上勝町での活動から、その取組を全国に広げている（一社）ゼロ・ウェイスト・ジャパンの坂野晶さんという。

“日々の生活の中で、いつごみが発生すると思いますか？それは、「ごみをごみ箱に入れる」タイミングではありません。その人が「ごみだと思った瞬間に」生まれます。”

そんな彼女が開発したのが、「捨てる」ことが前提になっている「ごみ」への考え方を変えるカードゲームだ。

分別やリサイクルだけではなく、ごみを様々な方法で救う選択肢を知ってもらい、また、「ごみになるものをそもそも生み出さない」ために出来ることを考えることができる。楽しみながら学んでみよう。



ごみ問題を遊びながら学ぶ  
 「ごみゼロゲーム」  
<https://zwjapan.org/>  
 一般社団法人ゼロ・ウェイスト・ジャパン

Book

## 違いを大切にしながら、 協働する方法

環境保全活動、ビジネス、地域づくり、国際的課題解決…あらゆる分野で協力の必要性が高まっている。しかし、人々の価値観が多様化した今、「私とあなたは同じ考えを持てる」といった同質性の上に築かれた従来の協力のやり方は、通用しなくなっている。

そこで必要なのが、「違う」を前提に力を合わせる、という視点だ。本書では、それぞれの「したいこと」が共に実現される「相利」について、誰もが技術を習得できるよう解説している。

身近なグループで、団体で、地域で、協働を進める際に手に取りたい一冊だ。



『協力のテクノロジー  
 関係者の相利をはかるマネジメント』  
 学芸出版社 (2022年4月)  
 著者 松原明、大社充  
 定価 本体2,700円+税

Book

## 地域から世界を変えていくヒントが つまった一冊

気候危機の問題や新型コロナウイルスの感染拡大。私たちに突き付けられた課題は大きく、個人でできるアクションに取り組んでも、問題の規模と自分の行動の規模との間にあまりに大きな開きがあって、途方に暮れてしまう人も多いのではないだろうか。

本書で紹介されている「トランジション・タウン」は、パーマカルチャーをベースに、地球規模の問題を地域の人とのつながりで解決できるように実践するというもの。個人と世界という2つのレベルの間に「まち」という中間的なレベルを差し込むことで、乖離した両社の間に橋を架けようとする画期的な試みだ。

「トランジション藤野」の13年にわたる活動から学んでみよう。



『僕らが変わればまちが変わり、  
 まちが変われば世界が変わる  
 トランジション・タウンという試み』  
 地湧の社 (2021年3月)  
 著者 榎本英剛  
 定価 本体2,000円+税